



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

平成26年 野球殿堂入り表彰式

館長 廣瀬 信一

《競技者表彰》

今年の野球殿堂入り競技者表彰は、7月18日(金)のオールスター第1戦(西武ドーム)の試合前に行いました。今回、競技者表彰のプレーヤー表彰で殿堂入りされたのは、野茂 英雄さんと秋山 幸二さんと佐々木 主浩さんです。

野茂さんは社会人の新日鐵堺時代に全日本に選出されソウル五輪に出場し、銀メダルを獲得しました。1990年ドラフト1位で近鉄に入団。“トルネード投法”から繰り出される剛速球とフォークボールを武器に1年目から最多勝、最多奪三振をはじめタイトルを独占し、新人王、MVPに輝きました。’95年にロサンゼルス・ドジャースに移籍し、13勝6敗、リーグ最多の236奪三振で新人王に選ばれました。日米通算で201勝をあげました。

秋山さんは’81年ドラフト外で西武に入団。’87年に43本塁打で本塁打王、’89年には“3割、30本塁打、30盗塁”のトリプルスリーを達成しました。西武黄金時代の中心選手として、8度のリーグ優勝と6度の日本一に貢献されました。’94年ダイエーに移籍し、’99年には主将としてチームを日本一に導くなど、’80～’90年代の球界を代表する俊足強打の外野手として活躍されました。

佐々木さんは’90年ドラフト1位で大洋に入団。’91年からリリーフとして活躍されました。’95年から4年連続リーグ最多セーブを記録。’98年には抑えとして45セーブをあげ、チームを38年ぶりの日本一に導き、MVPにも選出されました。



左から 野茂 英雄氏、ピーター・オマリー氏、熊崎 勝彦野球殿堂博物館理事長、秋山 幸二氏、伊東 勤氏、佐々木 主浩氏、谷繁 元信氏

'00年にシアトル・マリナーズに移籍し、37セーブで新人王を獲得。“大魔神”と呼ばれ、フォークボールを武器に日米通算381セーブをあげました。

両軍の選手・監督・コーチが各々ベンチ前で整列し、場内アナウンスで野茂 英雄さん、秋山 幸二さん、佐々木 主浩さんがスクリーン映像の紹介とともに登場されました。始めに、当館の熊崎 勝彦理事長より記念のレリーフのレプリカが各々に贈られました。次に、花束贈呈が行われ、野茂さんには遠路米国よりこの日のためにかけてくださった、元ドジャースのオーナー、ピーター・オマリーさんから、秋山さんには西武黄金時代の同僚伊東 勤千葉ロッテ監督より、そして佐々木さんには、横浜時代にバッテリーを組んでいた谷繁 元信中日選手兼任監督より贈られました。

記念撮影に続き、野茂さんからは「選ばれたときは若いし早いかなんて思っていたが、今はとても光栄に思っている」。秋山さんは、「34年前に西武に入団し、ここで私の野球人生が始まった。ここで表彰してもらえるのも何かの縁」。佐々木さんは、「同期入団の野茂君はいい目標でありいいライバルだった。彼の後を追ってメジャーに行った。一緒に表彰してもらえて嬉しい」とそれぞれ感謝の言葉を述べられました。式典の最後は、3人でレッドカーペットが敷かれたビクトリーロードを上り、満員の客席から大きな拍手と歓声を浴びました。

《特別表彰》



左から、熊崎 勝彦野球殿堂博物館理事長、相田 暢正氏、早稲田大学 中村 奨吾主将

特別表彰で野球殿堂入りされた故・相田^{ちやういち}暢一さんの表彰式を5月31日(土)に行いました。開催場所は、相田さんのゆかりの地であり、学生野球の聖地でもある神宮球場で、早慶戦の試合開始前に行いました。当日は、勝ち点を得た方が優勝という4年ぶりの決戦の初戦でもあり、大勢の観客が見守る中、盛大に行われました。

相田さんは、1921年北海道に生まれ、小樽中学から早稲田大学に進学され、野球部に投手として入部されました。その後、マネージャーに転身、太平洋戦争中、出陣学徒壮行試合の「最後の早慶戦」の開催に尽力されました。また、戦時中にバット、ボールを買い集め合宿所に保管し、戦後はそれらの道具を自校のみならず各校にも配布して、学生野球の早期復興に繋げました。再開後は卒業されるまで、学生監督を務められました。卒業後も、六大学野球、高校野球、社会人野球の審判員を務められ、また日本学生野球協会や全日本大学野球連盟等で理事・評議員といった数々の要職を歴任され、アマチュア野球界の発展に大きな足跡を残されました。

早慶両チームの選手・監督が各々ベンチ前で整列し、相田さんの功績がスクリーン映像で紹介される中、ご長男の暢正^{のぶまさ}さんが入場しました。はじめに、当館の熊崎 勝彦理事長より記念のレリーフのレプリカが、早稲田大学・中村 奨吾主将から花束が贈呈されました。記念撮影の後、暢正さんは「父にとって野球の原風景は早慶戦でした。その前で表彰していただき、父も喜んでいるはずですよ」と感謝の言葉を述べられ、最後に、早慶両校の野球部の活躍と東京六大学野球また野球界の発展を祈念しての挨拶がありました。

殿堂入りの人々を語る (44)

時計

相田 ^{のぶまさ} 暢正 (2014年野球殿堂入り 相田 ^{ちょういち} 暢一氏 長男)



2014年野球殿堂入り
相田 暢一氏レリーフ

私は、腕時計を6つ持っている。ストップウォッチ機能が必要になって買い求めたデジタル時計、ウィーンの分離派会館で見つけたクリームトの絵が刷り込まれた時計、年齢とともに眼が悪くなってきたので通販で購入した針と文字盤がはっきりと見える時計など、買い求めた時期や動機は様々である。しかしその中で一つだけ、私の不注意で動かなくなってしまった時計がある。何度も修理に出したが、結局は動かぬままである。時計は文字通り「時」を「計る」道具であるから、正確に時を刻まなくなった時計に用はない。役に立たなくなった道具は、新しいものと交換すればよい。しかしこの時計だけは、手放すわけにはいかない。

1978年3月、前年の大学院受験に失敗した私は、一年間どこにも籍を置かずに気儘に勉強を続けていた。そんなのんびりした生活をする私に、父も母も初めは文句ひとつ言わなかった。しかしさすがに一年たってもその後の目途さえ立たない私にも罪悪感のようなものが生まれ始め、何とか身の置き所を決めなければという心境になった。教員免許状を取得していた私は、まずはこれで生活の場を固めようと履歴書を50枚書いて母校の先生方をお願いし、働き口を探した。ようやく3月半ばになって試験を受け

に来いという一件の電話があり、その学校を訪ねて試験と面接を受けて内定をいただいた。母はすぐに父に知らせるよう、私を促した。内定を伝えると父は「そうか、よかった。食事をしよう」と私を誘い、私は言われるままに夕方新橋駅で待ち合わせて生まれて初めて二人だけの食事をした。ステーキを食べながら「よかったな」「おいしいか」という言葉ばかりを繰り返す父に、何をどう話せばよいか分からぬまま時間だけが過ぎていった。コーヒーを飲み終えると父は、「これを使いなさい」と小さな箱を取り出した。包みを解くと腕時計だった。しかもそれは、およそ大学生が使っているような代物とは違う、一人前の大人にふさわしい落ち着きを装った腕時計だった。

2003年2月、父は自宅で脳梗塞を起こし、以来9年間の療養生活が始まった。当初は「他人迷惑無用」の部訓を地でいく模範的な患者であったが、多くの方々からお見舞いや励ましをいただきながらも次第にその力は衰えを見せ、やがては早慶戦の中継さえじっと画面を凝視するばかりとなった。そして2012年4月、静かに息を引き取った。どこか満足気な表情であるように、私には思えた。

2014年5月31日、優勝がかかった早慶戦一回戦の試合前、父の野球殿堂入り表彰式が行われた。幼いころ父に連れられてこの球場に来たとき、両校のスタンドにはフクちゃんとミッキーマウスのボードが掲げられていたから、いつのことだろう。そんな記憶を辿るうちに、セレモニーが始まった。死ぬまで、故郷のこと、学生時代のこと、戦争のこと、野球のことなど、家族に多くを語らなかつた父が、そして選手として華々しい実績も残さず、野球も戦争も「いつもベンチ」だった父が、果たして何者であったのか、バックスクリーンに映し出された父の姿とたくさんの方々から送られた拍手で私は初めて実感できたような気がした。私は「父にとって野球の原風景は早慶戦ではなかったか」と、父の思いを精一杯込めてお礼のご挨拶をさせていただいた。

その日、何とか役目を果たして家に辿り着いた私は、引出しから動かなくなったあの腕時計をそと取り出し、その日から野球殿堂博物館で始まる特別展にあわせて、私も父の特別展を始めようと思った。

野球殿堂博物館 トピックス (2014年4～7月)

「12球団ファンクラブ会員様無料招待デー」を開催!



4月20日 中日デー

ドアラが来館し、
ファンと一緒に記念撮影

野球殿堂博物館では、今年もプロ野球12球団の各ファンクラブ会員様へのサービスとして、無料招待デーを実施しました。当日限定で球団ゆかりのユニホームの特別展示や、日本一に輝いた年の日本シリーズ上映、マスコットの来館など様々なイベントを実施しました。

※広島デー(4月9日)の様子は前号で紹介しました。



4月23日 日本ハムデー

B・B、カビー、ポリーが来館し
バッターボックス体験に挑戦



4月24日 楽天デー

クラッチ、クラッチーナ、
東北ゴールドエンジェルスが来館



4月30日 ヤクルトデー

つば九郎が来館し
当日限定の特別展示の前で記念撮影



5月7日 横浜デー

DB. スターマンが来館し
ベイスターズの展示コーナーで記念撮影



5月16日 巨人デー

ジャビットが来館し
バッターボックス体験に挑戦



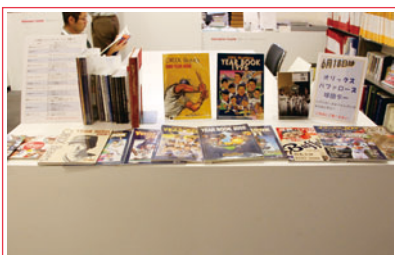
6月7日 西武デー

レオが来館し
ファンと一緒に記念撮影



6月8日 ロッテデー

球団職員と当館学芸員による
展示解説ツアーを実施



6月18日 オリックスデー

図書室では
過去の球団ファンブックを多数展示



7月1日 ソフトバンクデー

ウッチーくん、チョメちゃん、
マッチくん、ボンちゃんが来館。
本年殿堂入りした秋山監督の
展示前で記念撮影。



7月13日 阪神デー

球団ゆかりのユニホーム、帽子、
ソックスなどを特別に展示。

野球殿堂博物館 トピックス (2014年4～7月)

プロ野球12球団選手来館!

日本プロ野球選手会とNPBによるプロ野球80周年を記念した12球団選手の野球殿堂博物館見学で、交流戦期間中に、パ・リーグの各球団から選手数名が来館しました。選手たちは、戦没プロ野球人の名前が刻まれた「鎮魂の碑」、プロ野球の歴史に関する展示、球団の歴代ユニホーム、来館選手のアマチュア時代の書籍、企画展等を約1時間かけて見学しました。

※セ・リーグの選手は、7月～9月にかけて来館します。詳細は次号に掲載予定です。



5月25日 日本ハム

ファイターズの展示コーナーを見学



5月28日 楽天

「鎮魂の碑」を訪れる選手たち



6月7日 西武

往年の名選手の展示を眺める選手たち



6月9日 ロッテ

当館学芸員と球団職員から球団変遷図の解説を聞く選手たち



6月18日 オリックス

80年前の1934年日米野球のポスターを見学



6月20日 ソフトバンク

アマチュア時代の雑誌等を見る選手たち



野球殿堂博物館 トピックス (2014年4～7月)

【5月29日】

オールスターゲームの記者会見開催!



野球殿堂ホールにおいて、マツダオールスターゲーム2014の要項発表記者会見が開催されました。

【6月4日】

世界野球ソフトボール連盟のフラッカリ会長が来館!



世界野球ソフトボール連盟会長のリカルド・フラッカリ氏が来館し、館内を見学されました。

【6月6日】宮本 慎也氏来館!



元ヤクルトの宮本 慎也氏が来館し、館内を見学されました。

【6月9日】

「埼玉 vs. 千葉ライバルシリーズ 2014」記者発表開催!

今年も野球殿堂ホールにて「ライバルシリーズ」の記者発表が開催され、両球団社長と西武・秋山 翔吾選手、ロッテ・鈴木 大地選手が出席。両球団のマスコット、レオとマークンに加え、埼玉県の「コバトン」、千葉県の「チーバくん」も参加しました。



【6月10日】落合 博満氏来館!



2011年野球殿堂入りの落合 博満氏(現 中日ドラゴンズ ゼネラルマネージャー)が来館しました。

【6月19日】呉 明捷氏銅像寄贈式!

台湾・嘉義市の黄 敏恵市長より、呉 明捷(ごめいしょう)氏を模った銅像「翼を伸ばした鷹 KANO1931」をご寄贈頂きました。呉氏は、1931年に嘉義農林(台湾)が全国中等学校優勝野球大会で準優勝した際にエースで4番として出場し、のちに早稲田大学でも活躍されました。寄贈式は当館殿堂ホールにて行われ、呉氏のご遺族やゆかりのある方々にお集まりいただきました。この銅像は、現在アマチュア野球コーナーで展示中です。



【6月28日】

トークイベント「審判員ってどんな仕事?」開催!

元NPB 審判員で現・野球規則委員の井野 修氏を講師にお招きし、トークイベント「審判員ってどんな仕事?」を実施しました。コールの実演や、審判員のお仕事、用具の変遷などについて、約1時間お話をさせて頂きました。



【6月29日】

トークイベント「記録員ってどんな仕事?」開催!

元NPB 記録員の石井 重夫氏を講師にお招きし、トークイベント「記録員ってどんな仕事?」を実施しました。プロ野球で使われる“慶応式”スコアと、一般的に使われる“早稲田式”スコアの違いについてなど、白板を使って丁寧にご説明頂きました。



2014年 夏休みイベント情報!

「野球で自由研究！」

●期 間：～8月31日(日)
 ●場 所：館内 図書室ほか
 野球には、歴史や用語、野球用具、野球場など小・中学生の自由研究のテーマになるものがたくさんあります。当館では今年も夏休みに小・中学生の自由研究をサポートする「野球で自由研究！」を開催します。また、当館スタッフによる「ミニミニ実験コーナー」を今年も行うほか、自由研究のヒントを探す館内ガイドツアーも開催します!



昨年の様子

ミニミニ実験コーナー

●開催日：8月31日(日)までの月曜日～金曜日
 ※当館でイベントのある日を除く。詳しくは、当館ホームページでご確認ください。
 ●時 間：14:00～15:00 ●場 所：野球殿堂ホール



昨年の様子

「平成26年 野球殿堂入り特別展」

●会 期：～9月21日(日) ●会 場：館内 野球殿堂ホール
 野茂 英雄氏、秋山 幸二氏、佐々木 主浩氏の野球殿堂入りを記念して、「平成26年 野球殿堂入り特別展」を開催します。3氏ゆかりの資料や写真を展示し、経歴や記録などをご紹介します。

小・中学生のための館内ガイドツアー

●開催日：8月31日(日)までの土曜日、日曜日
 ※当館でイベントのある日を除く。
 詳しくは、当館ホームページでご確認ください。
 ●時 間：14:00～ ●集合場所：野球殿堂ホール

「バット製作実演」

●日 時：8月22日(金)、23日(土)
 ●時 間：11:00～12:00、13:30～14:30、15:00～16:00予定
 ●会 場：館内 野球殿堂ホール ●協 力：ミズノ株式会社
 今年もバット削りの実演を開催します！ミズノ株式会社のご協力により、クラフトマンによるバット製作の実演に加え、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。自由研究の題材におすすめのイベントです。



昨年の様子

博物館からのお知らせ

▶ 理事会

5月21日(水)都内のホテルにおきまして、理事会を開催いたしました。

- 議題 1.平成25年度事業報告・決算報告
 2.表彰委員会規程の一部改正 など

▶ 評議員会

6月9日(月)都内のホテルにおきまして、評議員会を開催いたしました。

- 議題 1.平成25年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)
 2.定款の変更 など

▶ 販売中!



●2014野球殿堂入り記念ポストカード
 4枚1セット 定価 400円(税込)
 2014年野球殿堂入りされた野茂 英雄氏・秋山 幸二氏・佐々木 主浩氏・相田 暢一氏のレリーフ写真をポストカードにしました。今年の殿堂入りの記念にぜひお買い求めください。

●プロ野球80周年記念グッズ

プロ野球80周年を記念して、ロゴ入りグッズを期間限定で販売しております。



- | | |
|----------------|--------|
| マグカップ | 1,200円 |
| 湯のみ | 1,200円 |
| ピンバッジ | 800円 |
| キーホルダー | 1,000円 |
| ボールペン(アオダモ材使用) | 1,500円 |
- (価格はすべて税込)

●NPB統一球オーセンティックボール
 シリアルナンバー入りNPB承認シール付き
 当博物館受付にて販売しております。
 ※郵送希望の方は、「公認球希望」と明記の上、代金(公認球代+梱包送料)を現金書留で当博物館までご送付下さい。

2,600円(税込)



公認球：1個 2,600円
 梱包送料：1個 250円 2～3個 400円 4個以上 送料無料
 送付先：〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
 公益財団法人野球殿堂博物館 公認球係

※2014年使用球

博物館のご案内

場 所	東京ドーム21ゲート右
開館時間	3月1日～9月30日 AM10時～PM6時(入館は閉館の10月1日～2月末日 AM10時～PM5時(30分前まで))
入館料	大人 600円(500円) 高・大学生 400円 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 400円
休館日	月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館) 年末年始(12月29日～1月1日)

【8月・9月・10月の休館日】

- 8月 無休
 9月 1日・8日・22日・29日
 10月 6日・20日・27日

※10月から閉館時間が午後5時(入館は午後4時30分まで)となります。

●編集後記 紙面の都合により、「コラム 博覧/博楽」「知ってほしいこんな資料」「こんにちは図書室です」はお休みします。

野球殿堂博物館 Newsletter 第24巻 第2号

2014年8月4日発行(年4回発行)
 編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
 (旧・財団法人 野球体育博物館)
 〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
 Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆(57)

“先生方”へ感謝の意を込めて

競技者表彰委員会幹事 平井 昭博 (時事通信社)

長く野球の取材に関わった。現場を離れて久しいが、選手、裏方、球団関係者と、現役時代は実に多くの方々からいい話を伺った。お世話になった“先生方”へ、感謝の意を込めて振り返りたい。

【星野 仙一氏】1991年、名古屋支社に転勤し、中日球団担当となった。若き闘将・星野 仙一監督の一次政権5年目だった。就任1年目から週刊誌に“けんか野球”、“鉄拳制裁”などという見出しが踊り、激しい指導ぶりに対する批判記事も、しばしば目にした。その論調は概ね「選手を人と扱わず、気分次第で殴る、蹴る」というものだったが、公に反論はしている様子はなかった。本当に気分次第で殴ったり蹴ったりしているのか。だとすれば、どうしてか。真実でなければ、なぜ反論しないのか。1シーズン、「星野・中日」を取材するうえで、この疑問はクリアしておきたかった。

オープン戦終盤のある日、名古屋市内の自宅を訪ねた。行くに行ったが、切り出せない。たわいもない話をしながらあっという間に1時間が過ぎた。話題も尽きたころ、監督がきっかけを作ってくれた。「お前、何か聞きたいことがあるんやろ」

正直に訪問理由を伝えると、「よくそんなことを聞きに来たな。よし、それなら全部話したる」と言い、就任早々の秋季キャンプから4年間、どのようにチームを立て直してきたか、2時間余り、延々と話し続けた。正捕手に育てた中村 武志選手に関わるエピソードは強烈だった。「あいつを泣きながら説教したときがあった。なぜ分らないんだ、分ってくれという思い。涙が止まらなかった」。人を人と思わない人間が泣きながら説くことない。監督の周りには常に多くの人が集まる。その理由も同時に分った。楽天監督4年目の今季は5月下旬、腰の病で長期休養に入った。戦線復帰を待望している。

【王 貞治氏】監督と担当記者という付き合いはなかったが、ホークスが東京遠征の際、球場で何度もお話させていただいた。世界の王が考える「スランプとは」や、「監督業の難しさ」など。単独質問に対しても、快く応じていただいた。一塁は守備力が衰えた選手の行き着く場所といった見方もある。一塁手への思いを聞いた。「望まない選手にとって一塁は楽しくない場所だろうけど、奥の深さはどのポジションも一緒。楽しみ無きところを楽しむ、というのかな。守備に対する人一倍の向上心、探究心が必要な場所という意味では、長く守ったことを誇りに思っている」。一流は道具、環境を選ばない。そういうことを学ばせていただいた。

【栗山 英樹氏】ミスター長嶋の長男、一茂のルーキーイヤーだった1988年、ヤクルト担当となった。自分に関する取材かと思えば一茂への感想ばかり。不満を隠さない選手がいる中、栗山選手だけは一度も嫌な顔をしなかった。

現役引退後、解説者に転じた栗山氏は記者顔負けの取材ぶり。「右利きの左打ちには決定的なウイークポイントがある」とか、「大技小技ができて足もある三番を最高打者とするなら、一発のある四番は最恐打者。イチロー君には三番がふさわしい」など。独特の野球論には学ぶべき点が多かった。投手と野手の二足わらじを希望する大谷 翔平選手の二刀流起用に賛否両論があるが、大賛成だ。打っても投げて一軍レベルという稀に見る逸材を使わない手はない。栗山監督でなければ実現しなかった英断だと評価している。